

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	小地域福祉活動補助事業	会計	一般会計	事業No.	87	施策順No.	33-001
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-1-14-7		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名			福祉課		
施策	33 共に支えあう地域福祉の推進	事業期間	開始	8	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	まちづくり委員会 補助金支出先: 飯田市社会福祉協議会						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		まちづくり委員会の数	20	20	20	20	20	
	意図	市内の各地区で、地区を中心に福祉活動が活発に行われる						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	小地域メニュー事業として実施された福祉活動数	70	51	49	80	47	60	B
	福祉活動によって設置されたふれあいサロン数	70	63	65	70	71	70	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	メニュー事業は目標に大きく及ばなかったが、ふれあいサロン数は3年ぶりに70を超えた							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>まちづくり委員会を通じ、地区内の小地域で実施される福祉活動に対して補助を行う。社協が全市統一的に推進する事業を対象に補助を行う。高齢者が身近な場所として通えるふれあいサロンの設置に重点を置き、サロンの運営補助を行う。旧社協委員制度支援事業で行っていたボランティア保険への加入助成を行い、安心して地域福祉活動を実施出来る環境を整える。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 全市統一的に推進する地区福祉活動の取組を支援。 (1) まちづくり委員会を通じ、地区内の小地域でメニュー事業に対し補助。 (2) ふれあいサロンの設置運営。 (3) まちづくり委員会を対象にした地域福祉研修会の開催。 (4) ボランティア保険への加入。</p>	<p>1 (1) 実施地区数 メニュー事業数 (2) サロン設置数 (3) 研修会開催数 (4) ボランティア保険加入人数</p>	<p>1 (1) 15地区 47事業 (2) 71箇所 (3) 1回 (4) 716人</p>
23年度実施計画	<p>1 全市統一的に推進する地区福祉活動の取組を支援。 (1) まちづくり委員会を通じ、地区内の小地域でメニュー事業に対し補助。 (2) ふれあいサロンの設置運営。 (3) まちづくり委員会を対象にした地域福祉研修会の開催。 (4) ボランティア保険への加入。</p>	<p>1 (1) 実施地区数 メニュー事業数 (2) サロン設置数 (3) 研修会開催数 (4) ボランティア保険加入人数</p>	<p>1 (1) 15地区 60事業 (2) 70箇所 (3) 1回 (4) 700人</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項	(そ)地域福祉基金利子
		県支出金					
		起債					
		その他	2,920	2,900	2,900		
		一般財源	0	20	20		
	計(A)	2,920	2,920	2,920			
	正規職員所要時間		20				
	臨時職員等所要時間						
	人件費計(B)		72				
	トータルコスト A+B		2,992				

4 事業に対する市民や議会の意見

より小さな地域で、そこに住む人たちの手で支え合う事業に対して助成を行うことは、福祉の進むべき方向であり、地区社協関係者からの批判も全く出ない。但し、活性化しようとする地区(人)には大きな配分がされるが、その逆の現象も当然見られ、今後の展開の課題となっている。意図的な重点配分事業とした「ふれあいサロン」の増加は、市議会社会委員会等にも報告済みで、評価を得ていると思われる。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が共に日常生活を支え合う	施策の成果指標又はムトス指標
			近隣で支えあいができている市民の割合(%) 福祉ボランティア活動をしている市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	ふれあいサロン等メニュー事業で住民同士の支え合いを支援している。	
	後期に向けた課題	住民主体の多くの支え合いが実施されるよう、住民に対して継続した働きかけが必要である。	
この事務事業の成果を向上させるためにどの ような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	様々なメニューを示すことで、住民が主体となって取り組めるようまちづくり委員会等を通じ働きかけている。	
	後期に向けた課題	引き続き、関心を持って取り組める魅力あるメニューを充実させていく必要がある。	
コストを削減する ためにどの ような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	住民主体で行うことで、必要最小限のコストで実施している。	
	後期に向けた課題	コストをかけずとも、住民が関心をもって取り組める創意工夫が必要である。	
受益者負担の 程度、市が関 与する程度は 適切でしたか	4年間の振り返り	助成額以上の経費については参加者が負担している。	
	後期に向けた課題	引き続き、事業にかかる経費の一部を助成する。	
多様な主体の役割の 発揮状況 ①その主体は誰で、 どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を 発揮するために、行 政はどのような働き かけをしてきました か、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	社会福祉協議会がメニューを提示し、住民が主体的に取り組みを行っている。 市は社協に対して補助金を支出している。	
	後期に向けた課題	市と社会福祉協議会で、魅力のあるメニューを充実させることで、住民が自ら関心を持ち主体的な取り組みとなるよう支援する必要がある。	
全体を通じて	4年間の振り返り	全市統一的に行う必要がある事業に対する補助であり、より多くの住民に関心を持ってもらい取り組んでもらえるよう、工夫をしている。活動量については、地区により差が生じている。	
	後期に向けた課題	引き続き、各地区で活動が行われるようメニューの充実等支援が行う必要がある。	

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--